

59年間の歴史に幕

▲旧講堂 来春新図書館に建て替

59年の歴史を刻み込んできたれんが色の旧講堂が、パワースタイルによってわずか数日で取り壊されてしまいました。生徒達も図書館として長年親しんできただけに、わずかに三日で跡形をとどめない現実、大きな戸惑いを感じていたようです。

この旧講堂は、大正十二年に県立志太中学が設立された五年後の昭和三年八月に完成。鉄筋モルタルづくり、大正時代をほうふつさせる外観で、入学式や卒業式、弁論大会など集会施設としての役割を果たしてきました。校医で、第三回卒業生の松永彦さん(74)は「当時としてはユニークな建物だった。サッカーの祝勝会で集まったこともあったはず」と在学当時を懐かしむ。

三十一年に体育館が新設されたため、三十三年から剣道場に姿を変え、部室として使われたこともあったようです。さらに三十八年からは中二階部分を設け、図書館になった。自習時間や放課後は生徒の利用も多く、古色を帯びた高い天井と、広々とした空間がもたらす落ち着いた



た雰囲気には、時の流れがもたらす伝統さえも感じられました。しかし、老朽化による雨漏りや耐震性の問題もあり、建て替えとなりました。

新築される図書館は鉄筋二階建、延べ約四百平方メートルで、一階が閲覧室、二階は教室として使用する計画です。三月末に竣工予定です。

開発が進む蓮華寺池周辺

蓮華寺池の周りは、同窓生には何故か懐かしい場所として思い起されることでしょう。今は十二月の上旬で池の西半分を覆っていた蓮も立ち枯れ、乾水期で一m以上も水位が下がった沼底は乾いた泥っぽく姿をさらしています。

西校寄りの狭い水面には主のアヒルだけではなく十数羽のマガモも姿を見せ、オスの頭部から首にかけての深緑の艶は目に鮮やかです。山際にかかった夕陽に映える辺りの淡い景色はもうすっかり冬の風情です。

自然の営みはかつての面影を色濃く残してはいますが、その周囲はすっかり変貌しました。東側の道路沿いは「蓮華寺池公園」と刻んだ大きな石碑がどんと据えられ、空にはモダン

なスタイル製の時計台がそびえ、その側には優雅な彫刻があり、池の北側には62年の11月に鉄筋コンクリート二階建の郷土博物館が完成し、「郷土の文化に触れ、過去から語りかけてくるものによって、現代の文化について考える」をテーマに展示をしています。そこから奥に進むとジョキングコース・滝をあしらった石組み・野外交楽堂・藤棚のベンチ・回遊式の小さな菖蒲園・赤や黄色のカラフルな白鳥ポットが浮かぶ、舟着き場と料理屋、かつて陰影の濃かった空間も今では明るく健全な公園となりました。

ところで、先日小川国夫さんの講演があり、その後の座談会で、ある生徒が小川さんの散歩コースである蓮華寺池周辺の急な開発に対して意見を求めました。すると大方の予想に反して、「私は惜しいという気がしない」と答えられ、その理由を「小説家とはある意味で暗気をすることである。昔の風景(イ



メージ)を網膜に焼き付けて置く、それを現在の風景と重ね合わせることで時の流れの深さがわかるからである。残すなら何か一つ手掛りになるものを保存して置いておきたいと思う」と説明されていたのが印象に残っています。

母校にいらっしやる機会がありましたら、蓮華寺池の散策をなさってください。

なつかしの同期会

◆志太中第八回生 物故者慰霊祭 及び同級会

志太中卒業後満五十周年を期し、昭和六十一年九月十二日(土)午後一時より、母校正門前「向善寺」に於て、物故者三十七名の慰霊祭を実施、出席生三十七名、遺族十五名、生存者二十五名、遺族十五名、生存者二十五名、代表し石井彰君が追悼の辞を朗読後、第六回卒業生伊村隆恵氏(同窓会長)第九回卒業生松本宏雄氏(一名の僧侶の読経の中、過去の大戦にて率先身を挺し祖國平和の礎となられし諸英霊及び戦後不幸にして病に倒れ、不帰の客となられた旧友の御霊を心からお慰め致しました。式後遺族を代表し第五回卒業生岡部町三輪院々長三輪淳氏より声涙溢る謝辞を戴き、出席者一同一層慰霊の心を新たに致しました。尚

三輪院長の弟、故輝夫君は志太中四年修了で旧制静岡高校に進み、京大医学部を卒業後海軍々医中尉となり、前線行きを志願し横須賀港を出海、昭和十八年二月八日南方洋上にて、弱冠二十五才で名譽の戦死をされました。(故海軍々医大尉)

又第十六回卒業生、佐貫資氏も遺族の一員として出席、同氏の兄生年君は昭和十一年四月私と共に陸軍に進み、昭和十四年九月卒業(第五十二期)中国大陸各地を転戦、終戦間近の昭和二十年一月千葉県松戸市の陸軍工兵学校教官(陸軍少佐)時代、沖繩防衛の為陣地構築指導に派遣され各地を指導後、昭和二十年二月十一日宮古島より沖繩本島へ帰還飛行中、米軍機B24と交戦、撃墜され、二十七才にて名譽の戦死を遂げられました(故陸軍中佐)。慰霊祭当日の記念写真には佐貫氏の撮影によるもの、又小儀儀助氏(藤枝商工会議所会頭)も出席、兄光一君(ニューブリテン島にて戦病死、故陸軍少尉)外の冥福を祈られました。

◆志太中第二回生 同期会

第二回生の昭和六十一年度同期会は十月二十一日焼津市焼津ホテルで、昭和六十二年度は十月二十六日静岡市富沢の紅竹パークセンターで開催された。

第二回卒業生は八十六名であるが、昭和五年卒業以来、大戦を間に波瀾の五十七年間を生きた抜いた者は現在三十八名となり、年齢も七十五才を越えたと、焼津での会合には一八名が参加し、恩師桑原謙、小宮山宏両先生もご出席下さって盛会であった。(写真掲載)

懐旧、体験、近況と話の種は毎年の繰返しも多いが、毎回不思議なのは、新鮮味と懐かしさを失わないのは、五年間哀歓を共にした同士の同期会たる所以であらう。

六十二年度は開催地を静岡市



長池先生御逝去

多くの業績を残して

本校サッカー部に多大な功績を残された長池實先生が、去る昭和六十二年四月十九日、浜松市で肝不全にて享年五十五歳、急逝されました。享年五十五歳。長池先生は、昭和三十三年より昭和五十三年まで二十年間、本校にて国語教諭として教鞭をとりつつ、サッカー部監督としても熱心に指導にあたられました。この間、全国大会出場20回(選手権13回・総体5回・国体2回)にも及び、このうち全国制覇8回(選手権4回・総体2回・国体2回)という比類のない偉業を達成されて、本校の名とサッカーの町藤枝の名とを全国に知らしめ、日本の高校サッカーの中心的指導者、牽引者として活躍されました。

葬儀には、本校関係者、サッカー部OB、また、県内外のサッカー関係者など多数が参列し、先生の御冥福を祈りました。尚、

- 昭29 東京教育大文学部卒 静岡高校教諭
- 昭33 藤枝東高校教諭
- 昭45 F.I.F.A公認ライセンス取得 静岡県サッカー協会 技術委員長
- 昭53 浜松商業高校教諭
- 昭62.4.19 肝不全のため逝去 静岡県体育功労章授章

◆第十六回生同期会

昨年(六十一年)十一月二十二日、三年毎の同期会を隔年に変更し始めて静岡に在住の人達のお世話で開きました。地の利を得て遠地より又静岡近隣の人達が始めての出席が目立ちました。毎回同期会を変った企画で実施して居りますが定まって二十五名位の集りです。又先日大切な友が亡くなりました。更に寂しい事は、私達十六回生には先生の来席がない事です。

どうぞ今迄出席されなかった同級生の皆様、童心に戻り大いに楽しく語り会おうではありませんか。皆が待って居ります。是非来回はご出席下さい。(佐賀 記)

